



学生部長



教務部長

執行部5部長に聞く①

未来に向けた「学びの場」の環境づくり

国学院大学では、針本正行学長のもとアフターコロナへの転換に際して、学生支援の一層の充実を図っている。大学運営を担う執行部と称される5部門(教務部・学生部・入学部・就職部・国際交流推進部)の各部長は、教育環境づくりに対し、どのような取り組みを進めているのか。5月号では、本学の円滑な学修・学生生活支援の中心となる教務部と学生部の両部長に、将来に向けた本学が目指す「学びの場」について話を聞いた。

令和5年4月に就任し、2年目を迎えた教務部長と学生部長。菅浩二教務部長(神道文化学部教授)は、学部の教務部委員時代にコロナ禍の対応に追われた。学生にとっても教員にとっても試練の時であったというのは間違いない。だがそうした苦難を乗り越え、結果的に教員も学生もさまざまな経験を積んだと思う」と当時を振り返る。そうした困難な時期を経て「マインスをプラスに変えていけるような、時代に合った新しい学びの場を作ればと考えている」と未来志向の抱負を語る。

一方、新型コロナウイルスの感染拡大で一時は停止も余儀なくされた学生の課外活動が復活し、キャンパスに活気が戻った今日、根岸毅宏学生部長(経済学部教授)は「学生活動が活発かつ積極的になってきたので、大学の支援がしっかりと学生に届くようにすることが学生部の大きな目標だ」と強調。そのための方策として、経済的支援・学生間交流企画・学生生活の安心安全の強化などに積極的に取り組んでいる。「親身になって支援してくれる教職員ばかりなので、いつでも尋ねてほしい」と呼び掛ける。

4・5面に関連記事

神殿鎮座記念祭を斎行

仮殿での神殿鎮座記念祭



学校法人国学院大学は5月1日に、渋谷キャンパス内の仮殿で94回目となる神殿鎮座記念祭(斎主Ⅱ星野光樹・神道文化学部准教授・神殿奉斎員)を、佐柳正三理事長、針本正行学長をはじめ法人傘下諸学校の役教職員、学生らが参列して、厳かに斎行した。

祭典は、斎主、教職員の祭儀員、瑞玉会学生が祭員として奉仕し執り行われた。

佐柳理事長は祭典終了後に有栖川宮記念ホールで行われた直会で「今年の神殿鎮座記念祭は昨年の秋に遷座祭を執り行ったため、仮殿での神殿鎮座記念祭の奉仕という形になった。140周年記念事業の一環として神殿造替工事が現在進行しているが、新しい神殿の造替は計画通り令和7年4月竣功を目指して着々と工事が進んでいる。これまでの神殿はたまプラーザキャンパスへ移築という形で併せて進んでいるが、これを機に渋谷キャンパス・たまプラーザキャンパスともに、学生・教職員・ステークホルダーの皆さんが身近に思っていただけ、建学の精神を感じられるような神殿になればと思っている」とあいさつした。

みはるかすもの

新年度に合わせて引っ越した人は、少しずつ生活が落ち着き、新居にも徐々に馴染んできた頃だろうか。住まいとは古今東西、人間にとって身近な環境であり、切実なテーマだ▼日本の住居政策を長らく論じてきた平山洋介氏の『仮住まい』と戦後日本「青土社」を読むと、かつて経済成長の中で形づくられた安定した人生設計のありよう、そして持ち家という住居の標準的モデルを想定してきた戦後社会の様相が、明確に変わってきていることが実感される。

「新たな世代にとって、人生の道筋は単数ではありえない。(中略)人生の『かたち』をより自由に描く若者が増えれば、その多

様な軌跡の集積から社会形成の新しい『かたち』が現れるのではないかと平山氏は問い、住まいの選択肢を増やすことを提案している▼同書の副題が「実家住まい・賃貸住まい・仮設住まい」とあるように、このことは、能登半島地震での避難者の方々の生活、そして建設の進む仮設住宅にも関わる。建築界のノーベル賞と言われるプリツカー賞を今年3月に受賞した建築家・山本理顕氏も、かつて共著『地域社会圏主義』(トウヴァージンズ)における平山氏との対話の中で、被災地で「高齢者と一緒に住むような町」「お互いに助け合うことができるような」住宅をどうつくるのか問うている▼今晚、それぞれの住まいで寝床に身を横たえ、見上げるだろう天井。それは隔てられているようで、どこかでつながっている。

第3回 Bloomingレクチャー

九重親方「昨日の自分に負けない努力」



人間開発学部地域ヘルスプロモーションセンターが主催する第3回Bloomingレクチャーが4月17日、たまプラーザキャンパス講堂での対面実施と、ライブ配信のハイブリッド方式で開催され、約150人が参加した。このイベントは「達人から学ぶ人間開発」をテーマに毎年春に開催しており、今回は大相撲の九重龍二親方(元大関・千代大海)と写真家Ⅱが「嫌いなことが得意になる」と題して講演した。

講演は富田一誠・同センター長(人間開発学部教授)と同左Ⅱとのトーク形式で進められた。師匠の先代九重親方(元横綱・千代の富士)からか

けられた「自分を信じて限界を超えろ」という言葉を今でも大切にしていると語り、「自分を信じるためには努力が欠かせないが、何をすべきなのかは教えてくれず、自分で考えさせる指導だった」と当時を思い返した。また、「最初は先輩や同期の弟子に負けたくないという気持ちだったが、努力を重ねるにつれて、その矢印が自分に向かってくる。昨日の自分を超えられないようであれば今日強くなるとは言えない」と述べた。

九重親方は「限界を超えたか」ということを常に自問自答し、入門する一番の動機であった『親孝行』のために、まだできるという気持ちでいろいろな稽古に臨んだ

と言う。さらに、「一日一日が成長している。やっていることが間違っていないと思っ

て続けていけば、それが道になる。そこで『最短の道を行く』と決め、自分を追い込んだ。嫌いなことであってもそのままするのではなく、好きなこと、得意なことに変えなければ次のステップに進めないと思った」と当時の心境を語りつつ、自身の成長の軌跡を振り返った。

もっと良くなりたい、先の景色を見たいという気持ちで大関にまでなり、最多記録タイの大関在位65場所を成し遂げた。横綱への昇進が果たせなかった当時を回想し「横綱になって1年で引退するより、少しでも長くやれることをやりたいと頭の切り替えができた。この経験が後進の指導に生かされている」と語った。

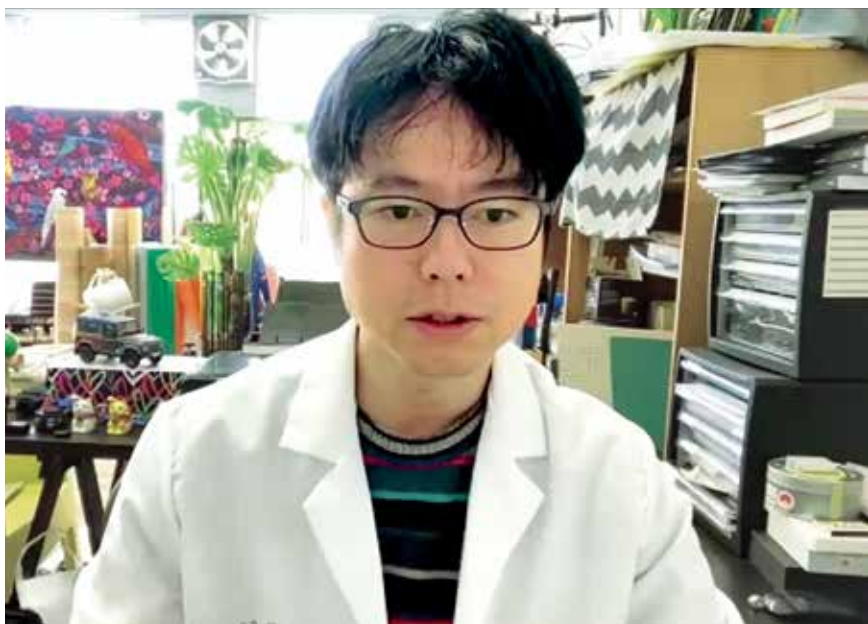
「嫌いなことを得意にさせるために弟子にはマイナスの言葉がけは決してしない。できないことがあれば違うことをやらせてみる。弟子との対話の中で、何のためにここにいるのか、そこから一つ一つほどこいて考えさせていくと頑張る要素を自分で見つけることができるようになる」と力強く指導の秘訣を語り、講演を締めくくった。

質疑応答の時間も設けられ、「壁にぶつかり、気持ちが落ちた時にはどうしたのか」との質問には九重親方は「自分では壁だと思わなかった。どんなものでも乗り越えようと思えば目標になり、自分で壁だと思ったら打ち破れない」と回答した。講演会終了後は、抽選で直筆の色紙をプレゼントするサブライズも用意され、それぞれ「夢」「道」「福」と墨書された色紙を当選者に手渡ししながら、笑顔で握手を交わした。

渋谷の「落書きとアート」を考える

第2回しぶカフェ「渋谷の落書きとアートのあいだ

～『仕事』+持続可能なまちづくり～」動画配信中▶



国学院大学研究開発推進センターが「SDGs」と建学の精神「研究事業の環境として、第2回「しぶカフェ」(共生社会×渋谷カフェ)を令和6年3月より公開している(大学公式YouTubeチャンネル)Ⅱ二次元コード。「しぶカフェ」は本学が立地する「多様性」のまち「渋谷」を学際的に研究する「渋谷学」と、持続可能(サステナブル)な「共生社会」へとつながる「共存社会の構築」について考える「共存学」の融合・発展を目的とした緩やかな学びの空間。渋谷区において、「サステナブル」な「まちづくり」を進めるシブヤサステナブル推進協議会(シブサス)のメンバーとの対話を進めることで、持続可能な社会、SDGsについて考えるきっかけにしたいと企画された。

令和4年度に実施された第1回「しぶカフェ」では、「渋谷区環境基本計画」の取り組みや、シブヤ若者気候変動会議の内容等について対話が進められた。今回は、シブサスのメンバーである、アーティストで一般社団法人CLEAN&ART代表理事の傍嶋賢氏Ⅱ写真Ⅱの活動に焦点を当て、渋谷区の落書き消去の取り組みをテーマとして対話が繰り広げられた。

冒頭、古沢広祐・研究開発推進機構客員教授とシブヤサステナブル推進協議会リーダーの松嶋範行氏によるシブサスの活動紹介が行われた後、傍嶋氏による「渋谷の落書きとアートのあいだ」と題する報告が行われた。傍嶋氏は、リサーチの結果、渋谷区の落書きが都内で最も多く、街の人や行政の方と話すときみんなが困っている現状を知った。そこで平成30(2018)年にCLEAN&ARTを設立して、企業や行政と協力し、一般の人々も参加できる活動として落書き消去活動を実施してきた経緯を紹介した。また、落書きのデメリットとして、犯罪の増加や、ゴミの増加等の環境悪化があることを説明。さらに落書きを消した場所に、アートとしての壁画制作を行うことで落書き防止になることを紹介するとともに、ロンドンなど外国でのストリートアート視察や落書き消去の経験についても報告した。

トークセッションでは、落書き消しはアートなのか、それとも社会課題解決の一端なのかとの質問に対して、傍嶋氏は、落書きを消して白くした壁は一つの作品であると考えていること、行為自体が及ぼす社会的変化が「僕にとつての芸術」と回答。ロンドンで、自身が「落書きを消すバンクシー」と紹介されたエピソード等についても言及した。

落書き対策を進める渋谷区環境整備課さいいなまちづくり係の清水裕樹係長は、CLEAN&ARTと協働して毎年約4000平方メートルの落書きを消去している実績について報告。また、昨年の「渋谷区長への施策提言コンペ」で渋谷区長賞に輝いた本学学生の清水元葵さん(法4)、三浦夕佳さん(法4)、森下陽向さん(日文4)、小松遥さん(史4)のグループは「地域への愛着を形成する意味で、落書きを消すという参加型の活動は良い影響を与える」とのコメントを報告した。

令和5年度指定寄付者一覧(敬称略)

令和5年10月1日～令和6年3月31日 (単位：円)

寄付者	寄付目的	寄付金額	収納日
医療法人社団博慈会 理事長 澤井 崇博	教育・研究振興支援 (医療を通じた地域貢献)	50,000	令和5年10月 7日
杉山 道明	学生・生徒等の活動支援 (硬式野球部、陸上競技部) 施設・設備充実支援 (たまプラーザ萬葉の小径<萬葉の花の会>)	20,000 20,000	令和5年10月20日 令和5年10月20日
關橋 淳	課外活動支援 (硬式野球部)	1,500 1,500 1,500 1,500 1,500 1,500	令和5年10月23日 令和5年11月22日 令和5年12月22日 令和6年 1月22日 令和6年 2月22日 令和6年 3月25日
柴野 悠樹	学生・生徒等の奨学基金	10,000	令和5年10月23日
五島 洋	課外活動支援 (モーターボート水上スキー部)	3,000,000	令和5年10月23日
黛 和夫	教育・研究振興支援	10,000	令和5年10月23日
市川 博之	学生・生徒等の奨学基金	2,500 2,500 2,500	令和5年10月23日 令和5年11月22日 令和5年12月22日
清水 理江子	学生・生徒等の奨学基金	5,000 5,000 5,000 5,000 5,000 5,000	令和5年10月23日 令和5年11月22日 令和5年12月22日 令和6年 1月22日 令和6年 2月22日 令和6年 3月25日
小野雅楽会 会長 小野 貴嗣	学生・生徒等の活動支援 (観月祭)	850,000	令和5年10月25日
匿名	学生・生徒等の活動支援 (硬式野球部、柔道部)	160,000	令和5年11月22日
浮田 洋司	課外活動支援 (陸上競技部)	10,000	令和5年11月22日
川端 真希子	学生・生徒等の活動支援 (尺八と箏と三絃の会)	150,000	令和5年11月22日
一般財団法人国学院大学院友会 会長 古田 茂穂	学生・生徒等の活動支援 (第27回高校生創作コンテスト) 学生・生徒等の活動支援 (第19回地域の伝承文化に学ぶコンテスト) 学生・生徒等の奨学基金 学生・生徒等の奨学基金	100,000 100,000 1,000,000 50,000	令和5年11月30日 令和5年11月30日 令和6年 1月31日 令和6年 2月28日
竹内 三郎	学生・生徒等の奨学基金	100,000	令和5年12月 5日
匿名	学生・生徒等の奨学基金	10,000	令和5年12月 6日
平野 英輔	学生・生徒等の活動支援 (マンドリンクラブ)	10,000	令和5年12月 7日
新井 さきほ	学生・生徒等の活動支援 (箱根駅伝応援)	10,000	令和5年12月11日
高橋 一行	施設・設備充実支援	150,000	令和5年12月13日
矢澤 敏司	学生・生徒等の奨学基金	10,000	令和5年12月13日
株式会社KOJIMASPORTS 代表取締役 小島 光顕	施設・設備充実支援 (相模原キャンパスグラウンド)	504,000	令和5年12月14日
株式会社ユニーク 加藤 謙太	学生・生徒等の活動支援 (国学院大学久我山高等学校ラグビーフットボール部)	500,000	令和5年12月22日
石井 啓隆	課外活動支援 (陸上競技部)	5,000	令和5年12月22日
姉川 光国	学生・生徒等の奨学基金	30,000	令和5年12月22日
山口 亜希子	教育・研究振興支援	30,000	令和5年12月22日
近藤 篤	学生・生徒等の奨学基金	10,000	令和5年12月22日
匿名	学生・生徒等の活動支援 (陸上競技部、硬式野球部、全学応援団)	30,000	令和6年 1月 6日
勝村 溪太	学生・生徒等の活動支援 (森木会)	50,000	令和6年 1月12日
伊東 みゆき	課外活動支援 (陸上競技部)	10,000	令和6年 1月12日
高山 充	教育・研究振興支援	20,000	令和6年 1月12日
坪野谷 修一	課外活動支援 (陸上競技部)	5,000	令和6年 1月12日
田中 美代	教育・研究振興支援	10,000	令和6年 1月22日
鹿島建設株式会社 安全環境部 部長 加藤 昌二	教育・研究振興支援 (神道文化学部)	100,000	令和6年 2月 5日
久保田 裕美	学生・生徒等の活動支援 (硬式野球部、柔道部、ラグビーフットボール部、男子バスケットボール部)	200,000	令和6年 2月 7日
栗原 彰	学生・生徒等の活動支援 (陸上競技部)	10,000	令和6年 2月 8日
匿名	学生・生徒等の活動支援 (国学院大学久我山中学高等学校)	3,000 3,000	令和6年 2月16日 令和6年 3月14日
峯村 一幸	課外活動支援 (陸上競技部)	10,000	令和6年 3月 7日
森崎 賀代子	課外活動支援 (陸上競技部)	5,000	令和6年 3月 7日
匿名	学生・生徒等の奨学基金	100,000	令和6年 3月15日
株式会社アルク 代表取締役 貴川 利光	学生・生徒等の奨学基金	60,000	令和6年 3月19日
国学院大学院友神職会 会長 松山 文彦	教育・研究振興支援 (研究開発推進センター学術研究資金、神道文化学部活動支援資金)	6,500,000	令和6年 3月25日
相模原市大野台ソフトボール部 有志代表 佐藤 忠司	施設・設備充実支援	22,000	令和6年 3月25日
株式会社エデュース 代表取締役社長 松本 雄一郎	学生・生徒等の奨学基金	1,300,000	令和6年 3月26日
国学院大学院友経済会 会長 橋本 憲市郎	学生・生徒等の活動支援 (大規模災害被災学生支援)	200,000	令和6年 3月29日

学校法人国学院大学では、私学としての公共性と独自性のある教育研究体制を確立するため、広くご寄付を募っています。

令和5年10月から6年3月まで別表の通り、多方面

「指定寄付金」ご芳名

の方々からご寄付を賜りました。ここに「芳名を掲載し、重ねて深甚の謝意を表します。
本法人に対する寄付は、専用用紙による申し込みとインターネット上でクレジットカード決済による申し込みが可能です。詳細は7面をご参照ください。
(総務部総務課)

『國學院雜誌』の創刊

『國學院雜誌』は、本年で創刊130周年を迎える。第二次世界大戦中の昭和19(1944)年に一時刊行が中断されたものの、戦後の23年に復刊され、現在まで通巻1405号(令和6年5月現在)を越えて毎月刊行され、本学を代表する学術雑誌として学界・思想界・教育界に大いに貢献している。『國學院雜誌』の創刊は社会の趨勢と、それに応える本学の歴史と深くかわる。

近世後期以降、「好古」への情熱を持つ人々によって、日本の国柄や文化に密着したさまざまなモノやコトの起源・来歴を考証する営為が盛んとなり、学派を超えた各種の私的集まりが次々と生じた。明治期にも学派にこだわらない国学者らの人的つながりに民間の学問結社が成立し、種々の研究雑誌が刊行された。明治20(1887)年11月、皇典講究所では卒業生の会として水穂会が結成され、同会は「本邦の文学を研究する」ことを目的とした。同会は関係者の著作を多数刊行しつつ、21年9月に雑誌『日本文学』を創刊する。黒川真頼・小中村清矩・落合直文・三上参次といった皇典講究所講師陣が筆を執っており、刊行は松野英雄幹事的主唱とされる。その時の「日本文学発行の趣旨」には「今本題に日本文学と称するものは、本邦現行の文学

を汎称するに非ずして、本邦固有の文学即ち国柄の如何を徴証すべきものを謂ふなり」と宣言された。同誌は23年4月の第21号から『國文学』に改題し、25年4月まで継続した。そして、同誌を前身として27年11月に国学院が創刊したのが『國學院雑誌』である。「発刊の趣旨」には、「国史国文の普及」と「深くこの学問を研究して、其の新彩を発揮」することが掲げられ、さらにその学問を普通教育の基礎となすべきことも明記された。

また同時期に皇典講究所では、明治22(1889)年1月を第1回として講演会を定期的に開催し、講演録を掲載した雑誌『皇典講究所講演』を刊行し始めた。第1号は同年2月15日付で松野英雄を発行者としている。およそ月に1、2回刊行され、29年8月1日付の第180号まで続いた。『皇典講究所講演』や『國文学』所載の論考などは後に分野別に振り分けられ、『法制論纂』『國史論纂』『國文論纂』『法制論纂統編』という国学院編纂の大著として36年から37年にかけて刊行された。このように、皇典講究所・国学院では講演・雑誌掲載・論集刊行という3段階の研究発信を行っていたことが知られる。

研究開発推進機構准教授 渡邊卓



『日本文学』発行の趣旨
(国学院大学図書館蔵)

「学生部」は、その名が示す通り“学生”の生活支援や経済的支援を主に担当しており、学生にとって身近な存在だ。根岸毅宏学生部長は「学生のために親身になってサポートするのが学生部の大きな特徴」と語る。学生部が取り組んでいる学生支援活動について詳しく話を聞いた。



学生部

三つの取り組み課題を柱に 学生生活の充実を図る

学生部長・根岸毅宏

学生部は、昨年度から学生サポートをまずはコロナ禍前と同水準に戻すこと、続いてより活性化することを目指し、三つの取り組み課題を掲げている。課題の一つ目は、経済的支援の見直しと強化だ。その第一が課外活動をサポートする褒賞制度の整備である。本学では、課外活動の支援や活性化を目的に、優れた成果をあげた個人や団体への褒賞制度がある。学生活動がコロナ禍前のように活発化したときに適切に褒賞することができるよう、学長特別賞の規程を新設し、学生部長賞の規程を改正した。令和5年度の学長特別賞は、大阪マラソンの学長特別賞は、大阪マラソン2024で、日本学生記録および初マラソン日本記録を塗り替えた陸上競技部の平林清澄選手(経営3Ⅱ当時)が受賞した。加えて、本学の在学生と教職員有志からなる若木学会が、個人や団体の課外活動を支援する援助金を支給している。

その第二が「成績優秀者奨学制度」の見直しである。改正前は、成績優秀者への奨学金額がGPA値により三つに区分されていた。そのため同じ成績優秀者でも学部学科によって奨学金額が授業料相当額、30万円、15万円の偏りがあった。この偏りを縮小するため奨学金額を2区分とし、GPA値3・8を基準に、成績優秀者がそれを上回る場合は授業料相当額を、それを下回る場合は授業料相当額の2

未来に向けた
「学びの場」の環境づくり

執行部
5
部長
に
聞く
①

課外活動の活性化と経済的支援の

両面からサポート

分の1を支給することにした。対象者は学生全体約1万人のうち60人程度だが、支給対象者は各学部長から表彰されるなど、経済的な意味だけでなく学生にとっては大いに学修の励みになるだろう。

その第三が学内外の奨学金制度の支援強化である。大規模災害学費減免制度や、地方出身者で一人暮らしの学生を支援する「ふるさと奨学金」、また、父母らの逝去により家計が急変した学生を対象にした「若木育成会学費等支援制度」などがある。なお、若木育成会は在学生の父母ら(保証人)が構成する団体である。加えて、学外の財団なども奨学金を募集している。そうした制度を紹介したり、推薦したりするなど、多面的に経済的支援を行っている。



ねぎし・たけひろ
経済学部教授。博士(経済学)。専門は財政学、福祉国家財政。主な著書に『アメリカの福祉改革』(日本経済評論社、2006)、共著書『アクティブ・ラーニングで学ぶ 日本の経済』(東洋経済新報社、2021)、共著書『アメリカの分権と民間活用』(日本経済評論社、2012)など。

これら三つの取り組み課題に加え、今年度は新たに「学生生活の安心安全の整備・強化」に取り組む。飲酒や薬物・ドラッグ、マルチ商法、カルト集団の勧誘などによるリスク回避やトラブル防止は、これまでも学生生活ハンドブックで注意喚起していたが、学生にどのくらい周知され、理解されているのか、確認できていなかった。学生生活が活発化し、リスクやトラブ

安心安全のために

周知徹底を促す

ルの可能性も高まっているため、ガイダンスや講演会を実施して、学生への注意喚起を徹底していきたい。昨年度は飲料メーカーの担当者を招き、適正飲酒の仕方を講演してもらった。飲酒をいたずらに禁止するというのではなく、節度を持った飲み方を学ぶことが肝要だとの判断からだ。学生の主体性を尊重するためにも、学生自らが自立した大人としての行動を身に

われれば、次の学生イベント企画リーダーが育ち、今後ますます発展していくだろう。

課題の三つ目は、全国的な安心安全な運動部の活動のための認証制度UNIVASSSCへの加盟だ。大学として認証を得ることはできたが、今後は各部会がその基準を順守できるよう学生部でフォローしていく。

付ける機会を提供していきたいと考えている。

また、学生生活を送る上で悩みを抱える学生を支援する学生相談室の周知徹底も図りたい。昨年度は学生相談室主催で「コミュニケーション・スキル講座」として、アサーション・トレーニングの講座を開催した。アサーションは、相手を尊重しつつ自分の意見を伝えるコミュニケーション方法である。例えば、頼まれ事を断れないという悩みを抱えた学生には、相手を傷つけずに断るスキルを身に付けてもらった。さらに、心身のつなかりを大事にしたヨガ体験講座なども開催している。ヨガ体験講座は募集をかけてとすぐに募集枠が埋まる人気企画の一つである。

このようにさまざまな活動をしているが、学生生活課・学生相談室・保健室など学生部の各部署は親身になって学生を支援する教職員ばかりだ。学生生活の支援と相談の窓口として、学生をいつでも歓迎している。

教務部

建学の精神を 共生社会の創造の学びに

教務部長・菅浩二

令和5年4月に教務部長に就任し、2年目を迎えた菅浩二・神道文化学部教授。令和2年度からのコロナ禍を経て、以前のような学生生活に戻りつつある今日、菅教務部長は「『知の創造』の場所として、能動的に教育的価値を作り出していきたい」と、未来の本学を見据える。詳しく話を聞いた。



時代に応じた学びの在り方を

整えていく

教務部の使命は、一言で言えば時代に応じた学びの在り方を整えていくことだと考える。学生に何を学んでほしいか、どういう社会人になってほしいか、大学で身に付けたことをどう生かしてほしいかというビジョンは、どこの学部でも掲げているものだ。そうした共通する部分について、教務部は大学執行部の組織として、できる限り効率よくかつ有意義な教育が実現できるように努力を続けている。

遡ること4年前の新型コロナウイルスの流行当初、私は神道文化学部の教務部委員を担当していた。大学はそもそも人と人が交流するところだが、それができなくなった。入学式が中止となり、入構も禁止された。私自身、初めは何をしようのかわからない状況の中で、一挙に遠隔授業が広まった。デジタルトランスフォーメーション(DX)による多様な変革が起きただけではなく、学生にとって教員にとっても試験の時であったというのは間違いない。

試行錯誤が続けられたが、苦難を乗り越え結果的に教員も学生もさまざまな経験を積んだと思う。アフターコロナに際して、教務部はどういう学びが可能か、模索を続けている。マイナス面をプラスに変えていけるような新しい学びの場、時代に合った学びの場を作ることができればと考えている。

中期5カ年計画では、本学の将来像として「未来の共生社会を創り出す人材を育成し、これまでの知の蓄積を踏まえて、物事の本質を究め、日本の淵源に思いをいたし、未来をひらく大学」を掲げている。建学の精神に基づき、大学として将来の日本と世界を支える人材を育成する上で、共生社会の創造と神道精神は、本学ではある種、表裏一体となった考え方だ。具体的には、神道文化学部の研究者として関わってきた「共存・共生」の価値観を積極的に推進していききたい。これは椿剛・共通教育センター長(法学部教授)と連携し、共通教育科目の中に位置付けていけるよう進めている。現在「共存・共生の思想」という科目も、共通教育プログラムに置かれている。

建学の精神の基底にある神道精神については、本学の指針や報告書などで、しばしば「主体性を保持した寛容性と謙虚さ」として言及されている。これは自然環境問題と価値の多様性、さまざまな考えを持つ人同士がどのように共生していくかというところはSDGsの一つのテーマであり、研究開発推進機構・研究開発推進センターが、「SDGs」と建学の精神」という研究プログラムを実施している。そういった専門のプログラムを積極的に学びの中に取り入れられるよう後押しができればいいと思っている。

本学全体が、すでに「日本を学ぶ」という特徴を現している。制度的に学生もそれを実感できるような「日本を学ぶ体系的なカリキュラム」を、これも自然環境問題と価値の多様性、さまざまな考えを持つ人同士がどのように共生していくかというところはSDGsの一つのテーマであり、研究開発推進機構・研究開発推進センターが、「SDGs」と建学の精神」という研究プログラムを実施している。そういった専門のプログラムを積極的に学びの中に取り入れられるよう後押しができればいいと思っている。

学修者目線からわかりやすく

学べる仕組みを提示する

歴史に即した解釈であり、主体性を持ちながらも謙虚であれということだ。人々の多様性を認め合いながら、人間だけでなく自然環境や成長の限界などさま

ざまな問題にも向き合い、持続可能な未来に向かっていけるよう、神道精神における共生社会の価値を教育の中に少しずつでも生かしていきたい。



すが・こうじ
神道文化学部教授。博士(宗教学)。専門は宗教とナショナリズム論、近代神道史。栃木県護国神社権禰宜。主な著書に『日本統治下の海外神社』(弘文堂、2004)、共著書『巨大ロボットの社会学』(法律文化社、2019)、The Covid Pandemic and the World's Religions. (Bloomsbury, 2023)など。

学内国際交流企画

交換留学生らと 本学学生が交流

歓迎会に集まった学生たち



項目に当てはまる参加者を探すゲームを行った



国学院大学で学ぶ留学生と日本人学生らの学内国際交流イベント「International Coffee Hour (コーヒーアワー)」が4月26日に渋谷キャンパスで開催され、約90人が交流を深めた。初めに田原裕子・国際交流推進部長(経済学部教授)が「多くの学生が国際交流歓迎会に参加してくれてうれしく思っている。短い時間となるが、たくさんの人との交流を楽しんでほしい。」と歓迎の言葉を述べた。

その後は「I know a person who... (私はこんな人を見つけました)」と題し、配布された用紙に書かれた趣味や特技などの項目に当てはまる人を探すゲームが行われた。「ニューヨーク市の全部の区が言える」「ベルギーの有名なチョコレートを食べる」「など留学生の出身地に関する項目もあり、お互いに質問を交わしながら交流を楽しんでいた。

参加した留学生は「ここまで多くの学生と交流することができると思っていなかったもので、とてもうれしかった」「ゲームを通して、たくさんの人とコミュニケーションをとることができた」などと充実した様子で語ってくれた。

同イベントは今後、隔週金曜日に開催される予定だ。

博物館・春の特別列品

物語、絵、歌で 平安文学の系譜をたどる

久我家嫁入本「源氏物語」第十二帖 須磨巻 (国学院大学図書館蔵)



国学院大学博物館が、本学図書館の名品を紹介する展示として4月20日から6月16日の期間で春の特別列品「恋とさすらいの系譜―源氏物語と平安文学」を開催している。今回の展示は、源氏物語の光源氏や、伊勢物語の昔男、竹取物語のかぐや姫などをは

じめ、平安文学の中で繰り返し語られ、作品を形成する主要なモチーフの一つであった「恋とさすらい」がテーマ。

本展示は、中古文学を専門とする竹内正彦・文学部教授が監修し、本学図書館が所蔵する平安文学に関係する写本や絵巻の数々を紹介している。物語、絵、和歌を織り交ぜながら描かれる「恋とさすらい」の系譜をたどることができる。

光源氏が都を思いつつ琴を弾く描写で知られ、多くの和歌を引用しながら叙情豊かに語られる第十二帖「須磨巻」II 写真IIなどの展示をはじめ、来館者たちは鮮やかな絵と和歌によって織りなされていく物語の世界を堪能していた。

ほかにも文豪の谷崎潤一郎氏が戦後に刊行した源氏物語の現代語訳「潤一郎新訳源氏物語」の草稿が本展で公開された。この草稿は旧訳「潤一郎訳源氏物語」に赤字で修正が書き入れられたもの。

平安時代後期に源俊賴が白河上皇の命で編集し、国指定重要文化財にもなっている勅撰和歌集「金葉和歌集」なども紹介され、それぞれの展示解説を読みながらじっくりと鑑賞する来館者の姿が見られた。

また、本学研究開発推進機構の総合プロジェクトとして運営している国学院大学デジタル・ミュージアムでは、本展の資料情報がオンラインで公開されている。

ベスト・ティーチング賞 10人を表彰



国学院大学教育開発センターは「令和5年度 学生が選ぶベスト・ティーチング賞」の表彰式を5月9日、渋谷キャンパスで開催した。

この賞は学生が学期末に各科目に対しての満足度や到達目標達成度について答える「授業評価アンケート」に基づき、教員を表彰するもの。当日は針本正行学長から賞状と副賞が手渡され、受賞教員の趣向を凝らした授業をたたえた。受賞者(10人)は以下の通り。

◆文学部▷伊藤龍平教授▷針谷壮一教授◆経済学部▷櫻井潤教授◆法学部▷藤嶋亮教授◆神道文化学部▷山口祐樹助教◆人間開発学部▷杉田洋教授◆観光まちづくり学部▷井門隆夫教授◆兼任講師▷長浜尚史講師▷内藤裕子講師▷高村聰史講師

留学への第一歩 Go Global Weekを開催



海外留学を希望する在学生へ向けた説明会＝写真＝や個別相談を行うGo Global Weekが4月15日から19日にかけて渋谷キャンパスで開催された。

17日には、国際交流課の職員による夏期短期留学説明会が行われ、短期留学の特徴や留学先の紹介がされた。説明会では、留学に行くために必要な条件や準備について伝えられ、学生たちは熱心にメモを取りながら説明に耳を傾けていた。

参加した学生は、「説明会を通して、留学先の雰囲気を知ることができ、短期留学をしたいという気持ちが強くなった」とうれしそうに語っていた。

若木育成会 本部役員会・総会を開催 郡司掛司氏が新会長に就任

在学生の父母ら(保証人)で組織される若木育成会は4月27日、渋谷キャンパスで本部役員会を開催した。令和5年度の事業報告、決算や6年度の事業計画や予算案などが審議・承認された。

また本部総会が5月18日に渋谷キャンパスで開催された。本部役員に加え、全国各支部の支部長が集い、事業計画案や人事案などの審議が行われ、本部役員会で会長候補者として選出された郡司掛司氏が会長に就任した。懇親会場では、各支部で会員間交流を目的に実施している取り組みについて、会員同士で積極的に情報交換や交流が行われていた。

学校法人国学院大学 人事

【新任】

◎参与▷森野ゆかり(令和6年4月1日付)

はじめ、平安文学の中で繰り返し語られ、作品を形成する主要なモチーフの一つであった「恋とさすらい」がテーマ。

本展示は、中古文学を専門とする竹内正彦・文学部教授が監修し、本学図書館が所蔵する平安文学に関係する写本や絵巻の数々を紹介している。物語、絵、和歌を織り交ぜながら描かれる「恋とさすらい」の系譜をたどることができる。

光源氏が都を思いつつ琴を弾く描写で知られ、多くの和歌を引用しながら叙情豊かに語られる第十二帖「須磨巻」II 写真IIなどの展示をはじめ、来館者たちは鮮やかな絵と和歌によって織りなされていく物語の世界を堪能していた。

ほかにも文豪の谷崎潤一郎氏が戦後に刊行した源氏物語の現代語訳「潤一郎新訳源氏物語」の草稿が本展で公開された。この草稿は旧訳「潤一郎訳源氏物語」に赤字で修正が書き入れられたもの。

インフォダイジェスト



…在校生



…保証人



…卒業生



…一般



…受験生

内容

日にち

時間

場所

対象

定員

料金

申込み

問い合わせ

大学からのお知らせ

「指定寄付金」ご協力のお願い



内学校法人国学院大学では、私学としての公共性と独自性のある教育研究体制を確立するため、広く寄付を募っています。寄付の種類は「学生・生徒等の奨学基金」「学生・生徒等の活動支援」「教育・研究振興支援」「施設・設備充実支援」の四つに加え、学生の課外活動（スポーツ強化部会など）を支援するための「課外活動支援」や「メッセージ募金」を設けています。「メッセージ募金」は、スポーツなどの課外活動に熱心に取り組む学生に向けて、HP上からメッセージを直接投稿してもらう仕組み。ワンコイン（500円）から寄付が可能で、メッセージはそのまま専用HPで公開されます（匿名可）。

申専用紙またはインターネットでのクレジットカード決済が可能です。

問総務課（☎03・5466・0111）

※本法人への指定寄付金は税制上の優遇措置を受けることができます。寄付に関する情報は専用HP（<https://kifu.kokugakuin.ac.jp>）で閲覧できます。

本学が参加予定の進学相談会（5月下旬～6月）



内各地で開催される進学相談会に参加を予定しています。入学試験制度や本学の学びに関する最新情報をもとに、進学に関する疑問や質問に直接お答えします。本学への進学をお考えの受験生、保護者の方はぜひご来場ください。進学相談会の最新情報は本学HP（二次元コード）からご確認ください。



日・時・場別表参照

問入学課（☎03・5466・0141）

令和6年度 進学相談会参加予定一覧（～6月）

都道府県	都 市	会 場	開催日	時 間
東 京	水道橋	東京ドームシティ内プリズムホール	5月24日(金)	13：00～18：00
東 京	池 袋	サンシャインシティ文化会館（2F展示ホールD）	5月25日(土)	11：00～17：30
静 岡	静 岡	ツインメッセ静岡	5月26日(日)	11：00～16：00
群 馬	高 崎	ビエント高崎	5月26日(日)	11：00～16：00
神奈川	横 浜	横浜新都市ホール（横浜そごう）	6月 1日(土)	13：00～17：00
茨 城	水 戸	水戸プラザホテル	6月 3日(月)	13：30～17：30
栃 木	宇都宮	マロニエプラザ	6月 5日(水)	14：00～18：30
長 野	長 野	ビッグハット	6月 5日(水)	14：30～18：30
長 野	松 本	やまびこドーム	6月 6日(木)	14：50～18：30
愛 知	名古屋	ナディアパーク デザインセンタービル	6月 8日(土)	10：00～17：00
千 葉	幕 張	東京ベイ幕張ホール	6月 9日(日)	11：00～16：00
広 島	広 島	広島国際会議場	6月 9日(日)	10：00～17：00
埼 玉	大 宮	大宮ソニックシティ	6月11日(火)	15：30～18：30
神奈川	横 浜	パシフィコ横浜	6月13日(木)	15：30～18：30
大 阪	梅 田	梅田センタービル	6月15日(土)	10：00～17：00
静 岡	浜 松	アクトシティ浜松	6月15日(土)	13：00～17：00
福 岡	福 岡	エルガーラホール	6月16日(日)	10：00～17：00
東 京	池 袋	池袋サンシャインシティ	6月16日(日)	11：00～16：00
埼 玉	春日部	ふれあいキューブ	6月17日(月)	16：00～18：30
山 梨	甲 府	アイメッセ山梨	6月23日(日)	11：00～16：00
北海道	札 幌	ベルヴェオフィス札幌	6月23日(日)	10：00～17：00
埼 玉	川 越	ウェスタ川越	6月25日(火)	14：00～18：00
宮 城	仙 台	仙台国際センター	6月30日(日)	12：00～17：30

イベント

30

令和6年度 オンライン公開講座 「死者と生きる—私たちは死といかに向き合ってきたのか—」



内本講座は、これまで日本社会の中に存在してきた死生観について、とりわけ「死者との向き合い方」について考える講座です。古代から現代に至るまで、人々の生活や社会の中で育まれてきた「死者との向

き合い方」を、1回90分・全5回のオンライン講座の中で多様な学問の観点から各回の講師よりお話しいただきます。

日6月7日(金)～11月8日(金)

料11,000円（全5回）

申令和6年5月30日(木)締め切り。専用HP（二次元コード）から申し込み。

問エクステンションセンター（☎03・5466・0270、jigyoku@kokugakuin.ac.jp）



キャリアサポート



※詳細確認・申し込みはK-SMAPYⅡから行ってください

インターンシップ対策講座「筆記試験1日集中対策編」

内1日でSPIの初級レベルから玉手箱まで、広範囲を一気に学習する講座です。頻出分野の問題を確実に解けるようになることが選考突破に向けたポイントになります。誰でも簡単に答えが出せる解き方を解説します。ハイブリッド形式で開催。

日6月8日(土)

対1～3年生

WEB 合同企業説明会

内本学学生の採用意欲が高い、優良企業をお招きして開催する学内合同企業説明会です。応募先企業を新たに探したい方は、ぜひご参加ください。オンライン形式で開催。

日6月13日(木)

対4年生

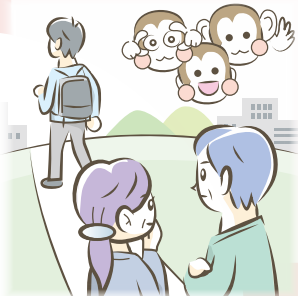
「赤子には肌を離すな 幼児には手を離すな 子供には目を離すな 若者には心を離すな」これは、「見ざる・言わざる・聞かざる」の三猿に對し、現代の情報化社会に沿った「よく見・よく聞いて・よく話そう」の「お元氣三猿」で親しまれている秩父神社の「親の心得」です。

国学院大学に入学した学生たちは、もはや親の保護を受けず、独立して何事もできるようになった、と思われるかもしれない。しかし、この「親の心得」にあるように、彼らの「心は離さない」ようにしましょう。では、「心を離さない」とは、どういうことか。しかも、国学院大学の「告諭」にある「本ヲ立ツル」、すなわち日本の伝統文化に基づいた日本の根本を極める神道精神を基礎とする子育てにおいては、どういうことなのか。

それはやはり、本学の開設理念となった「古事記」における「国生み」にみられるでしょう。その「根本」は、欧米では、神々他我が「つく（造）る」の対して、日本のそれは、自らが「なす」ということです。イザナギ、イザナミに、天つ神が下界の海を指し示し、「この漂へる国を修理ひ固め成せ」と命じられ、天の沼矛を賜ひて、カラカラとかき鳴らし、塩が固まり島となる、のです。

本学の社会的使命は、「なる」社会の建設に向けた社会の開発と人心の開発です。すなわち、社会や人を「つくる」のではなく、自ら「なる」方向に導く「開発」方法を探求課題としています。また、今日の情報化社会では、自ら「なる」「なろう」とする主体化が必須条件とされています。ここで、「つくる」から「なる」への意識改革の一例を挙げましょう。先日の国学院大学の卒業式では、本学の客員教授でもある、さだまさし氏の公演というサプライズがありました。

彼によれば、長崎の小学校時代は、天才ヴァイオリニストとして期待を集めていましたが、上京してからは、その重圧に押しつぶされてしまった。その彼に、本学入学後、変化が起こります。「自分は何をしたいのか」「自分はどんな自分になろうとしているのか」と自問したのである。その答えは、歌を通して「人に心を伝える歌手になりたい」、でした。総じて言えば、今日の彼ができたのは、技術力の偏差値を競う「つくる」教育からの脱却ですし、「（自ら）なる」への意識改革だったのです。今年度も「明治天皇御製」で締めさせていただきます。今回は手元を離れていく我が子を想う親心を詠った句です。「ひとりたつ身となりし子を幼しとおもふや親のこころなるらむ」



今こそ、自ら「なる」「なろう」とする心の支援を



名誉教授 新富 康央

しんとみ・やすひさ
学校法人国学院大学特別参事。
人間開発学部初代学部長、専門
は教育社会学、人間発達学。新
しい時代の子育て論には定評。

近くて遠い？ 遠くて近い？ そんな親の気持ちや子どもの気持ちを一緒に考えませんか？ 新富名誉教授による子育てエッセーを隔月でお届けしています。読者の感想や新富名誉教授への質問をお待ちしています。

陸上競技部

海外レースADIZERO
ROAD TO RECORDSで
日本人1～3位独占

アディダス社が主催する「ADIZERO ROAD TO RECORDS 2024」が4月27日に、ドイツ・ヘルツォーゲンアウラハのアディダス本社内に特設されたコースで開催され、国学院大学陸上競技部からは、男子5kmに3選手が出場した。本大会は、箱根駅伝などの3大駅伝で競う青山学院大学や創価大学などの選手も出場する中、後村光星選手（健体2＝写真）が14分00秒で日本人トップの15位という成績を収めた。続く、上原琉翔選手（健体3）も14分30秒で16位（日本人2位）、野中恒享選手（健体2）も同タイムで17位（日本人3位）と、日本人1～3位を国学院

大学勢が占める形となった。序盤は世界歴代2位の記録を持つヨミフ・ケジェルチャ選手（エチオピア）らが先頭集団を形成。日本人選手が先頭集団に食らいつく積極的な走りを見せていたが、徐々に世界トップ選手たちとの差が開くレース展開となった。その中でも後村選手は3km辺りから日本人トップに立ち、最後まで粘りトップと1分遅れ、後続とも差をつける形でゴール。初めての海外レースで世界



日本人1位となった後村選手／写真・月刊陸上競技

のトップ選手たちにもまれる中、幸先のいい結果を残した。

柔道部

全日本選抜体重別選手権大会

中村選手が3位入賞



3位入賞を果たした中村選手（同部提供）

柔道の国内タイトルの一つ、全日本選抜体重別選手権大会が4月6、7日に福岡国際センター（福岡市）で開催された。本大会は5月のアブダビ（アラブ首長国連邦）で開催される世界選手権の代表選考会を兼ねた大会となる。国学院大学柔道部からは中村俊太選手（健体4＝写真）のほか院友（卒業生）2人を含む3選手が出場し、男子90Kg級で中村選手が3位に入賞し、66Kg級でも院友の藤阪泰恒選手（平31卒・127期健体、パーク24）が3位入賞を果たした。

中村選手は初戦の中西一生選手（旭化成）相手に、開始1分37秒内股で技ありを取ると、激しい攻防の末3分

26秒に大内刈りの技ありを取り、合わせ技一本で勝ち上がった。続く準決勝戦は田嶋剛希選手（パーク24）と対戦。試合開始後、果敢に攻めるも寝技に持ち込まれ、横四方固めで抑え込まれ一本負けとなり3位で大会を締めくくった。中村選手はこの3位入賞の結果を受けて、全日本のC強化（ジュニア）選手からB強化選手に昇格となった。

なお、本大会の66Kg級に出場した武岡毅選手（令4卒・130期日文、パーク24）は初戦敗退ではあったものの、講道館杯2連覇、グランドスラムパリ優勝の実績なども評価され、5月に開催される世界選手権代表に選出された。

硬式野球部

東都大学野球
5位で終盤戦へ

東都大学野球1部春季リーグが第4週第1戦を終え、国学院大学硬式野球部は5月9日時点で5位となっている。

第2週では、中央大学と対戦。4月16日の第1戦は2-5、17日の第2戦は0-6で敗れた。

第3週は、亜細亜大学と対戦。30日の第1戦は、四回表に2本のタイムリーヒットで2点を先制される。五回表にも追加点を奪われ、六回時点で0-3と苦しい試合展開となる。しかし、七回裏にヒットと二つの四球で2死満塁のチャンスを作ると、富田進悟選手（健体4）が外角の直球を見極め、四球の押し出しで1点を返す。続く、伊東光亮選手（経4＝写真）が逆転満塁本塁打を放ち、5-3で劇的な勝利を飾った。5月2日の第2戦では、0-4で迎えた七回表、代打で出場の矢田柊介選手（健体4）のタイムリーヒットで1点を返すも追加点が奪えず、1-4で敗れた。勝ち点がかかる第3戦は22日に行われる予定だ。

第4週では、日本大学と対戦。9日の第1戦は0-2で



逆転満塁本塁打を放った伊東選手

迎えた三回裏に神里陸選手（神文4）の犠牲フライで1点を返すも、あと1点を奪うことができず、試合は1-2で惜しくも勝利には届かなかった。

同部は第5週で駒沢大学と対戦。終盤戦に望みをつなぐ。

定期購読のご案内

本紙は本学の学生・院友・教職員の活躍や、本学のニュースをお届けする機関紙（年11回発行、8月は休刊）です。本紙ではご希望される院友（卒業生）の皆さまなどに向けて定期購読を随時受け付けております。年間購読料は500円（税込み・送料含む）です。購読ご希望の方は、**二次元コード**からお申し込みいただくか、広報課までご連絡ください。
※在学生の父母ら（保証人）で構成される若木育成会の会員の皆さまには、学生が卒業するまで年間購読料不要で送付しています。

お問い合わせ先

総合企画部広報課
〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28
[電話] 03・5466・0130（直通）
[メール] kouho@kokugakuin.ac.jp

